

寒稽古の成果を披露

第39回柔道大会

村柔道部(兵藤武志部長)では1月8日から13日までの6日間、寒稽古を実施し、保育園児から大人までの精鋭が参加しました。

また、1月14日には第39回柔道大会を昭和中学校柔道場で開催しました。

大会は、参加した保育園児から中学生までの児童生徒13人が、それぞれ寒稽古で鍛えた技の成果を競い合い、白熱した試合を繰り広げました。



鍛えた技の応酬

大会結果(敬称略)		優勝	準優勝	第三位
小学生	低学年の部	新田 美瑛	岩田カマル	徳江 文禮
	中学年の部	新田 旭	徳江 郁水	—
	高学年男子の部	八木 健斗	後藤 仁	—
	高学年女子の部	後藤 美樹	—	—
中学生	1年生	藤井 瞳	—	—
	2年生	加藤 翔太	廣田 隼人	飯塚 優



気迫の込められた打ち合い

大会結果(敬称略)		優勝	準優勝	第三位
小学生	中学年の部	須田 里桜	須田 琉菜	松井 快斗
	高学年の部	松井 月葉	櫻澤 るる	—
中学生	男子	渡辺 匠	櫻澤 真	桑山 貴光、関上 和真
	女子	池田 未咲	須田 蘭	—

竹刀に気迫を込めて

第41回剣道大会

村剣道連盟(新木茂会長)主管の第41回村民剣道大会が1月14日、昭和中学校剣道場で開催されました。

同部では大会に先立ち、1月8日から13日までの6日間、寒稽古を実施。剣士たちが元気に参加しました。

大会は、小学生の部、中学生男子の部、中学生女子の部でそれぞれ稽古の成果を競い合い、剣道場には子どもたちの気合いの入ったかけ声が響き渡っていました。

羽のついたボールで熱戦

第22回インディアカ大会

村インディアカ部(綿貫誠治部長)主管の第22回インディアカ大会が1月21日、社会体育館で行われました。大会は女子の部に10チーム、混合の部に14チーム、およそ124人が参加。

インディアカは、赤い羽根のついたボールを相手コートに打ち合う、1チーム4人で行うバレーボールに似た競技。参加者は優勝を目指して熱戦を繰り広げました。



迫力ある空中戦

大会結果 ▶女子の部 優勝：川額ポンテリング
▶混合の部 優勝：菜の花C

横浜市と交流しています

横浜市でこんにやく作り体験教室



こんにやく作りを楽しむ参加者



できたてを試食



講師の皆さん

村では12月17日、横浜市子ども植物園研修室でこんにやく作り体験教室を実施しました。これは、平成25年10月に友好交流協定を締結した横浜市との交流事業の一環として行われたものです。

こんにやく作り体験教室には、公募による抽選で選ばれた18組36名の小学生と保護者が参加。村から加藤英子さん、野田清美さん、新木ふみさん、遠藤初代さんの4人が講師となり、(公財)横浜市緑の協会、横浜市職員の方々のご協力をいただいております。

参加者は、こんにやく芋をミキサーにかけて練り込み、手作りこんにやくができるまでの作業を体験。力と根気がいる作業もありましたが、親子や参加者同士で協力し、楽しみながら作ることができました。出来上がったこんにやくは味噌などを付けて試食。「おいしい」という声がたくさんあがりました。

このほか、昭和村フォトコンテスト入賞作品の展示や、昭和村やこんにやくに関するクイズなども行い、参加者の皆さんに昭和村をより深く、より身近に知っていただけたイベントとなりました。

横浜市の小学校給食に昭和村のこんにやくが登場

横浜市立小机小学校(児童617名)では、12月19日の給食に昭和村産の生芋こんにやくと、地元小机町産の聖護院大根を使った和風煮物のメニューが登場しました。

同校6年生は、赤城林間学園を訪れた際に村長からこんにやく芋を譲り受けたことをきっかけに、小学校の畑でのこんにやく芋の栽培や、最寄駅にてこんにやくのPR、生芋からのこんにやくづくりなど様々な活動を行ってきました。今回の給食は、同校からの「給食でも昭和村と小学校のつながりを感じられるメニューを作りたい」との相談から実現しました。

給食を食べた児童からは「味がよくしみておいしかった」「普段食べるこんにやくと比べて色が白くてやわらかかった」との声があがりました。同校栄養教諭の高原早苗先生は「以前食べた昭和村の生芋こんにやくが大変おいしく、子どもたちにも普段食べているこんにやくとの違いや、そのおいしさを届けられて嬉しく思います」、田代千佳子校長先生は「これをきっかけに昭和村と横浜市との交流がますます深まればと思います」と語りました。



昭和村の生芋こんにやくが使われた特別メニュー(中央)



給食室前に展示・紹介されました



生芋こんにやくに触れる児童